

いのちの持ち物けんさワークショップ 2016年2月13日(土)2・3限 9:50-11:40 荒川区立第四中学校

ステップ	スライド#	内容	意図・ポイント	時間(分)
イントロ	1	SOAR メンバー・団体紹介、事前注意	SOAR のことを知ってもらい、メンバーに親んでもらう。難民に関する基礎知識と、ワークショップのポイントを確認。	5
アイスブレイク	2	前日1日を振り返り、自己紹介を兼ねてグループ内で共有。	グループ内の空気を和らげ、意見の共有に慣れてもらう。自分の何気ない一日でも、他の人と全く違う一日であることを実感してもらう。	5
いのちの持ち物けんさ -15分				
書き出し	3,4	自分が今持っているもの、自分を証明するものを3色の付箋に書き出し、色ごとに分類して貼る。「いのち」は赤色のふせん全員書き出してもらう。	自分だけのパーソナルなリストを作って欲しいので、出来る限り具体的に書き出してもらう。 例:「家族」→「お父さん」「猫のミミ」	10
グループ内でシェア	5	自分のリストのポイントを、グループ内で共有。付箋に書いた、一番大切なもの、思い入れのあるものを1人1点紹介。	お互いの意見から刺激を受け、書き出しやすくする。また、他の班員のリストの個性、自分との違いから、自分のリストの個別性を意識してもらう。	5

ステップ	スライド#	内容	意図・ポイント	時間(分)
喪失の疑似体験-25分				
青色の喪失	7	青色の付箋をはがし、用紙の裏面に貼り直す。表面の白紙部分に、それらのものがなくなったらどう感じるかを想像して書き出す。個人で書き出したあと、各グループ内でシェア。司会が1グループを当てて発表。	青色のものの喪失により、物理的な不便さ等だけでなく、精神的にどのような影響を受けるかを想像して感じてほしい。ここでの想像が、次のステップで、自分の想像上の状況と難民の現状を重ね合わせる際に、どれだけ難民の痛みを理解できるかに関わってくる。	5
黄色の喪失	8	黄色の付箋をはがし、用紙の裏面に貼り直す。表面の白紙部分に、それらのものがなくなったらどう感じるかを想像して書き出す。個人で書き出したあと、各グループ内でシェア。司会が1グループを当てて発表。	黄色のものの喪失により、物理的な不便さ等だけでなく、精神的にどのような影響を受けるかを想像して感じてほしい。ここでの想像が、次のステップで、自分の想像上の状況と難民の現状を重ね合わせる際に、どれだけ難民の痛みを理解できるかに関わってくる。	5
赤色の喪失	9	「いのち」以外の全ての付箋をはがし、裏面に貼り直す。表面の白紙部分に、それら全てがなくなり、命だけ残されたらどう感じるかを想像して書き出す。個人で書き出したあと、各グループ内でシェア。	赤色のものの喪失により、物理的な不便さ等だけでなく、精神的にどのような影響を受けるかを想像して感じてほしい。ここでの想像が、次のステップで、自分の想像上の状況と難民の現状を重ね合わせる際に、どれだけ難民の痛みを理解できるかに関わっ	5

		司会が1グループを当てて発表。	てくる。	
全体で振り返り	10,11,12	各色ごとに、実際にそのような状況にある難民の人の写真を示し現状を紹介。		5
DVD 鑑賞	13	国連 UNHCR 協会 DVD	難民問題の現状を学び、今自分たちが想像したものと重ね合わせ、難民の人々の心の痛みを感じてもらう。	5
難民の人たちにはないもの	14-24	難民が何を持っていないか、何に困っているかを、写真を見て考えてもらい、何人かに発表してもらおう。難民の数や避難生活の期間についてもあててもらう。	水、食糧、防寒具、家など、私たちが当たり前を持っているものを持っておらず、長く苦しい避難生活を強いられる人たちが世界に多くいることを知ってもらう。	5
難民の人たちにあっても私たちにないもの 難民の人たちにも私たちにもあるもの	25-35	難民キャンプでの写真、日本の子どもたちの写真、難民の子どもたちの写真などを見せ、難民の人たちにあっても私たちにないもの、難民の人たちにも私たちにもあるものを考えてもらう。	たくましさや助け合う気持ちなど、真の意味での生きる力を難民の人々は持っているのではないかということ、命や未来や希望などは等しく持っており「難民」というだけで同じ人間だということに気付いてもらう。	15

ステップ	スライド#	内容	意図・ポイント	時間(分)
自分への気づき-25分				
「今の自分にできることは何か」を考える	36	「いのち」の付箋をはがし、裏面に貼りなおす。最初に作成したリストをもう一度見ながら、今の自分や自分が持っているものを振り返り、それを踏まえて社会や世界のために「自分ができることは何か」考える。書き出したのち、グループ内でシェア。班で1枚模造紙に考えをまとめてもらう。各班発表者を決める。	自分が幸いにして持っているもの、支えられているものの存在を実感し、それをどのように社会や世界の人々に役立てられるか具体的に考えてもらう。	15
各班発表	37			15

合計 100 分